

## ミスター・Kの英語教育ワンポイント指導ヒント

千葉県旭市教育委員会外国語教育アドバイザー  
千葉大学 教育学部 学校教員養成課程  
東京女子大学 現代教養学部 国際英語科 非常勤講師  
加瀬 政美

### 【第8号】 小・中学校向けバージョン

#### ★Small Talk とは何か！？ その指導ポイントはと言うものか！？

小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック（2017, 文部科学省）には次のように書かれています。Small Talk を定義しています。（p. 130）

スモールトーク（Small Talk）は、帯活動で、あるテーマのもと、指導者のまとまった話を聞いたり、ペアで自分の考えや気持ちを伝え合ったりすること。5年生は指導者の話を聞いたことを中心に、6年生はペアで伝え合うことを中心に行う。

注目は、「指導者のまとまった話を聞いたり」①、「ペアで自分の考えや気持ちを伝え合ったりすること」②です。

#### ● 定着を図る、即興性を高める Small Talk の大きな効果とは、どのような意識で指導したらいいだろうか？

※先生が一方向的に英語を話し、児童生徒の理解しづらい語彙や表現を使う Small Talk は、それを聞いている子供たちは苦痛でしかない！ 😞

3つのポイントにまとめてみます！特に②について焦点化します。参考にいただければ幸いです。

#### ポイント 1

話しかけ方、相手と共有している、共通点のある話題を使って話せる機会を仕組もう！

習ったばかりの表現と言えども、“What food do you like?”，“Where are you from?”，“What time did you go to bed?”等を唐突に聞き合うことは避けましょう。現実、いきなりそのようには聞きません。まず、スムーズに挨拶を交わし、相手の受け入れ態勢を作ってからが自然だと思います。そこで、例えば、Hello, (は)、I am 名前、(あ)、How are you? (は)、の(は)、(あ)、(は)の手順をお勧めします。また、一方向的に自分の言いたいことを相手に聞いてもらうということではなく、やり取りの中で、共通点を探す、例えば、話題が「食べ物」なり、「ようかんが大好きで」という展開になった時、「私もそれが好きですよね」、「そうですか、とても甘いですよね、おばあちゃんが大好きでね」なんてこのようにお互いの共通点から相手と深く知り合えた感覚を大切にしたいところです。わかりやすく日本語で示しましたが、コミュニケーションをとることで、相手をより深く理解でき、ホッとする気持ちが持てることです。これがコミュニケーションを豊かにするということです。

## ポイント 2

会話の往復数（ターン数）をかせごう。そしてツッコミクエスチョンを入れる。

あなたと相手との会話のキャッチボールが続く数、つまり会話のやり取り数です。慣れていないと自分の言いたいことが終わったら、「はい終わり」という意識の学習者が多いようです。その状況を見て、先生がどう指導するかです。自分の考えを一方向的に述べ、相手の言っていることを聞いていないのではコミュニケーションにはなりません。相手の言ったことを聞き、確認し、聞き返すことが大事です。よく、リアクション言葉を指導される先生がいらっしゃいます。確かに、知識としてはその指導は大事ですが、必要もないのにリアクションのやりすぎの児童をよく見受けます。そして何回リアクションを行ったか等先生が児童に問い、その多さが評価項目になっている授業をしばしば見ます。児童は、多くリアクションをすればいいという意識だけが育ってしまい残念だなあと感じる時があります。理解力を上げるために、念を押したり、確認したりするリアクション行為があるのです。リアクションが多ければ、コミュニケーションが豊かになったということではありません。

## ポイント 3

文法的に間違えたとしても、その場ではあえて正すことはしない。ターン数を増やすことで流暢性を上げていく。

ここで大切なのは、聞き返す力と自らの瞬発力を上げることです。また、ロールプレイとしてトレーニングしないことも大事です。例を暗記して、それをきれいに発話しても意味がありません。「うまく言えない、でも今もう少しで口から出てくる、あっ、違っちゃった、すぐに直してみよう！、よし！今度はうまく言えた」なんて心の叫びと共にやり取りを続けていくことに意義があります。自分なら、この質問にどう答えるかという productive（自分で英語を駆使して作り出す）感覚と瞬発力育成を強化することが成長のカギです。

最後に、ice break（緊張をほぐす、場を和やかにする）意味合いもあるので、授業の帯活動のような前半に行うべきです。これが Small Talk の大きな成果とつながります。特に、日本人は「場違い」発言を恐れる傾向にあるようですが、慎重になりすぎて何も出てこないより、「文法は間違えてもいいので、とにかく決められた時間にやり取りを続けるんだ」という意識高揚も大切となります。

★身近な話題→簡単な質問→共通点を探す→親近感→できたという自信→望ましい学びの集団→英語力の向上→学ぶ意欲の向上→さらに別な身近な話題→簡単な質問→～

このスパイラルで効果的なコミュニケーション能力を培っていききたいものです。